



地域おこし協力隊活動レポート

新規開業ホテルでの町産ワイン取扱決定！

昨年6月にガストロノミーツーリズム支援員として就任しました。「ガストロノミー」は聞きなれない言葉ですが、風土やその地域の歴史的背景までも含めての美食を意味します。就任後は前職のワイナリー時代からのつながりを活かし、札幌市やニセコ町を中心としたレストランやホテルの方々に町産ワインや食材をご紹介する機会をいただきました。

直近では昨年12月にニセコ町で12年ぶりに誕生した日系ホテル「ニコースタイルニセコHANA ZONO」にて町産ワインをお取り扱いいただき、国内外から訪れるお客様に向けて町産ワインの魅力を発信する新たな場と機会を提供する企画が形となりました。「訪れるお客様が喜ぶ地元ワインを紹介したい」とお声がけいただいたのは夏頃。立ち上げ当初からスタッフの方々の熱意があってこそ形になった企画であると感謝しています。

町のガストロノミーの発信を経て、今後はガストロノミーを目当てに余市町へ訪れる人々に向けての企画を目下検討中です。土地の歴史や町の人々の想いが形となった産業、素晴らしい産品を、時代に合った形で町内外に発信していきたいと考えています。(黒須)



▲ホテルへのPRが実を結び、町産ワインの提供が決まりました！

問合せ 政策推進課 政策調整係 ☎21-2117



余市養護学校と地域の繋がり

12月24日、余市養護学校で令和6年度第2回学校運営協議会が開催されました。この協議会は、地域と連携して特色ある学校づくりを進めることを目的に、令和4年度に設置され、今回は地域の方々に加えて多くの教職員が参加し、約70名が集まりました。

今回は「学校と地域のみなんで子どもたちを育てよう～地域社会で学ぶ意義を考える」をテーマにし、最初に、地域連携の取組みとして、小学部では、『興味・関心、経験を「広げる」』、中学部では、『身に付けた力を「高める」』、高等部では、『身に付けた力を「発揮する」』、訪問教育では、『生活経験や人間関係の広がりを目指して』、寄宿舎では、『余暇の充実、生活の基盤づくり』に焦点をあて、町内の果樹園、水産博物館、商店と学校間の交流などを各教職員が報告しました。

その後、宮岸尚平校長から、余市町の資源を活用した農福連携の推進が提言され、熱心にグループ討議が行われました。ゲストとして参加した地域おこし協力隊観光協会支援員の田口りえ隊員は、「子どもたちが地域を知るには、まず教職員が余市町を知ることが重要」と話し、さらなる連携を期待しました。

最後に宮岸校長は「貴重なご意見を教育活動の充実に繋げていきたい。地域とどう繋がっていくのか、地域とともに余市養護学校がどのような活動をしていくのか、改めて教職員一同で考えていきたい」と話していました。



▲グループ討議



▲意見を述べる田口隊員

問合せ 政策推進課 広報統計係 ☎21-2117